



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



強い危機感をもって

国内で、また市内でも新型コロナウイルス感染症の拡大は、勢いを増しています。週末に「いっせいくん」メールでお知らせしたように、市内で休校措置を取っている学校が増えています。その中には、多くの子ども達と教職員が検査を受けるような状況の学校もあります。本当に、緊迫した状態が迫っていると感じます。



市内での急激な感染者の増加の内訳を見ると、ほとんどが集団感染です。福祉施設や会社、そして学校で広がった結果だと言えます。当然のことですが、一人の感染者（無症状や軽症）が無意識のうちに集団に入り、無意識のうちに多数に感染を広めるわけですから、正直どうしようもありません。比較的症状が出にくい子どもが集まる学校は、まさにそういう状況です。ですから、ご家族に感染の可能性がある場合、例えば濃厚接触者や健康観察対象者になった場合には、学校に必ずご連絡をお願いしているのです。そのご家族がPCR検査を受ける場合、お子さんは出席停止となり、登校できないと決められています。あってはならないことですが、もし「まだ陽性と決まったわけではないから…」と登校させ、結果的にご家族もその子も感染していた場合、本当に取り返しのつかない状況を引き起こす可能性があるのです。「風邪症状あり」のお子さんを登校させることも同様です。「いっせいくん」メールに書いたように、今は無理をする時ではありません。



今週はぐんと冷え込むとの予報が出ています。しかし、学校では常時換気を心がけるようにします。また、PTAが準備してくださった機器を使ったり、教室に濡れタオルを常時干したりしながら、乾燥を防ぐ取組みをしています。もちろん、手洗いや手指消毒、マスク着用や3密防止はこれまで通り、いやこれまで以上に危機感をもって続けていきます。ご家庭でもどうぞよろしく願いいたします。

なお、この件については、適宜「いっせいくん」メールやプリントなどを使って情報発信していきます。もし本校でも感染者が出た場合などは、なるべく具体的に学校の対応等をお知らせします。各ご家庭では、ぜひ冷静にご対応いただくようお願いいたします。ただし、そうした場合でも、「個人」に関することは、これまでの学校の対応と同様にお伝えできないことが多くあると考えられます。どうぞご了承ください。



交通安全は 当たり前の行動を 当たり前にすることから

今月11日（金）から31日（木）まで、年末の交通安全福岡県民運動が行われています。運動の重点のひとつは「子供と高齢者の交通事故防止」です。慌ただしい時期ですので、ドライバーも歩行者も一層の注意が必要だと考えられます。

しかし、最近の子どもたちの登下校の様子を見ていると、気になることがいくつかあります。



決められた通学路を通らなかつたり、信号点滅中でも無理に横断したり、友だちとふざけて周りの様子に注意が向けられなかつたり…といったことです。

大切な命を守るためには「当たり前のことを当たり前」という意識と行動が欠かせません。交通安全だけでなく、不審者対応という点からも重要です。

防災・減災について「生の声」で学びました

今月3日（木）、5年生が「防災・減災オンライン授業」を受けました。リモートで岩手県釜石市と結び、東日本大震災の際に中学生として避難した方のお話を聞きました。

自分たちで判断し、命を守るためにより安全だと思われるところまで逃げ続けた話からは、体験者ならではの真剣さと緊迫感が伝わってきました。

